薬経連ニュース2020年3月5日号

（2020 年 2 月 28 日までのトピックの紹介）

Ⅰ.薬局・医療機関関連

I. 440 施設が再編対象

厚労省は 424 施設を名指しした再検証対象医療機関について、データ入力漏れなどや紙レセプトの手術実績の追加などを行った結果、対象となっていた施設のうち 7 施設が対象から外れ、代わりに 20 施設程度が新たにリストに加わる見込みであり、再検証対象医療機関は**およそ 440 施設に増える**。リスト公表は 2020 年 3 月以降になる見通しである。

II. 福岡、新規開業、状況踏まえた判断促す

福岡県は、2020 年度～2023 年度の福岡県外来医療計画案を公表した。それによると県内 13 の 2 次医療圏のうち、9 の医療圏が外来医師多数区域となっている事や、精神科など診療科によってはアクセスのしやすさに偏りがある事などを明らかにした。今後、同県で新規開業を考えている医師に対しては外来医師の**偏在状況を十分踏まえた判断を促す**必要があるとしている。

III. 医療機関の承継を日医が支援

日本医師会は定例記者会見で、医療機関の第三者承継の支援体制を充実させていく方針を示した。民間医療機関の 4 割が**将来の選択肢として閉院を視野に入れている**状況や 38%が第三者への承継も検討していることから、承継に関して適切な専門家を紹介することなどの機能を強化していく考えである。

IV. 高齢労働者向け保健指導

厚労省は「人生 100 年時代に向けた高年齢労働者の安全と健康に関する有識者会議」の報告書をまとめた。それによると高齢労働者に対する健康保持増進措置に関して、健康診断や体力チェックを行い、**介護予防にも用いられるフレイルのチェックを行う**ことや高齢者自身も自らの健康状態を把握できるようにすることなどの必要性を訴えている。

V. 着床前診断で議論

日本産科婦人科学会は、遺伝病を防ぐため受精卵の遺伝子を調べ問題がないものを選別する着床前診断に関し、**対象疾患を拡大する議論を開始**した。日本では診断する対象を子供のころにかかる重い疾患に限定しており、乳がん含め 600 種類ほどの遺伝性疾患を対象とするイギリスなどとは一線を画した対応をしている。今回は、命には関わらないが子供のころに発症しやすい網膜芽細胞腫を対象に加えるかどうかを議論する。。

関連部署でご回覧ください。

Ⅱ．行政・技術関連情報

I. iPS 心筋シート移植実施

大阪大学の研究チームは、虚血性心疾患で思い心不全の患者に対し**iPS 細胞を用いて作製した心筋シートを移植する臨床試験**を行ったと発表した。今後、10 名の患者への実施を目標に治験を行っていく考えである。現在、重い心臓病は心移植に頼らなければならず、その場合は年齢制限やドナーの確保など様々な問題がある。今回の治験は、2018 年の大阪での地震で一時中断されていたが、それを乗り越えて実施された。

II. 高齢者福祉事業者倒産過去最多

帝国データバンクによると 2019 年の高齢者福祉事業者の倒産件数が過去最多になった。**倒産件数は前年よりも 13 件多い 96 件**となった。負債総額も過去最高の 161 億円になった。利用者は増加しているものの、同業者による競争も激化しており、人材確保難や人件費の高騰なども影響してきている。老人ホームは多額の一時金を支払い終の棲家として利用されることもあり、倒産後の利用者への影響が懸念される。

III. 後期高齢者 2 割、範囲縮小けん制

1 月 27 日に開かれた財政制度等審議会財政財政制度分科会は、中間報告の内容について議論を行い、一定の所得がある 75 歳以上の後期高齢者の医療費自己負担を 2 割に引き上げることに関し、必要性を再確認し、2 割負担の対象者が定まっていない点に関し、**範囲が縮小しないよう検討すべきとの意見**が出された。国民の不安の解消と現役世代の負担の軽減がポイントであるとの指摘も出された。

IV. 2020 年度は、介護予防インセンティブ倍額

厚生労働省は自治体による高齢者の自立支援・重症化予防に向けた積極的な取り組みついて評価する財政的なインセンティブに関して 2020 年度は**倍の予算を設けて市町村に対する取り組みを促す**。このインセンティブは保険者機能強化推進交付金と言い 17 年に創設され、介護予防への取り組みを点数化して評価する。厚労省は 18 年と 19 年の点数を比較して、取り組みの底上げが図られたとみており、倍増を決断した。

V. 薬剤は患者の病状に合わせて説明

日本医療機能評価機構は、ヒアリハット事例として抗うつ剤、末梢神経障害性疼痛治療薬である「トリプタノール」を皮膚科から痛み止めとして処方された患者が、薬剤の説明を見てうつ病の治療薬と書いてある点で問い合わせがあったことを取り上げ、**患者の病状に合わせ薬剤師が説明するよう求めた。**

関連部署でご回覧ください。

Ⅲ. 企業関連情報

I. バイオジェン、製品導入

バイオジェンは、ファイザーから**中枢神経領域の候補物質「PF-05251749」を導入する契約を締結**したと発表した。同剤は、現在 P1 段階にあり、アルツハイマー病の夕暮れ症候群、パーキンソン病の不規則睡眠・覚醒リズム障害の治療薬として開発していく方針である。同剤は 24 時間周期の概日リズムをつかさどる中枢神経系透過性低分子ガゼインキナーゼの阻害剤であり、概日リズムを調整する機能が期待されている。

II. KM バイオ、JBPO と提携

KM バイオロジクスと日本血液製剤機構は血液凝固第Ⅶ因子と血液凝固第Ⅹ因子を有効成分とするバイパス止血剤「バイクロット配合静注用」に関して、**コ・プロモーション提携基本契約を締結**し、2020 年 4 月以降、販売は KM バイオロジクスが行い、プロモーションを両社で行うことになる。また、現在アルフレッサファーマが販売している「献血グロブリン注射用 2500 ㎎ KMB」に関して 4 月以降流通、販売、MR による情報提供を日本血液製剤機構が行うと発表した。

III. アムジェンに

米アムジェンとアステラス製薬、アステラス・アムジェン・バイオファーマ（AABP）は、2020 年 4 月 1 日より **AABP が米アムジェンの完全子会社**となり、社名もアムジェン株式会社に変更すると発表した。アステラスが保有する AABP の発行済み株式 49%をアムジェンが買い取る。現在発売中の製品は 4 月以降も引き続きアステラスとコ・プロモーションを行う。

IV. イワキ、スペラファーマ子会社化

イワキは武州製薬子会社で国内唯一の統合型 CMC 研究受託機関である**スペラファーマを完全子会社化**すると発表した。イワキは医薬品原料の製造販売や創薬支援サービス、一般用医薬品、機能性食品原料、化粧品原料の販売や OEM 供給などを行う企業であり、今回の子会社化で事業領域の強化を期待している。

V. AZ、SGLT-2 で効能追加申請

アストラゼネカは、糖尿病治療薬で SGLT-2 阻害剤の**「フォシーガ」に関して、慢性心不全治療薬としての効能・効果**にて製造販売承認事項一部変更承認申請を行ったと発表した。同剤は P3 試験において 2 型糖尿病合併の有無にかかわらず、左室駆出率が低下した心不全患者に対し主要複合評価項目の発現リスクを 26%低下させ、リスクを低下させるアウトカムが確認されている。

関連部署でご回覧ください。

Ⅳ. 展望

I. 中身と媒体

有名なミュージカル、「キャッツ」が日本にも上陸、映画化されたが、米国での批評家の評判はいまいちのようだ。ある批評家によると「**映画という手段が適したものと適さないものがあることを分からせてくれる**」という嫌味たっぷりな表現で全否定していた。映画を見ていないので、この批評が正しいのかわからない。そもそも感性は人それぞれで、誰かにとってつまらなくても、別の人には面白いかもしれない。ただ、批評家が言うような、ようは“映画化が適さない内容”というのは世の中にあるのだろうと思う。

世の中には小説、ラジオ、アニメ、実写映画、舞台、ミュージカル、マンガなど様々な表現方法がある。そして、**内容によってどの手段で表現するのが、一番素晴らしいのかは違ってくる**。完全な主観だが、「吾輩は猫である」などは独特の言い回し含めて小説が一番良いと思う。あれを映画にしても間延びする。スターウォーズは特撮を使った実写映画だから迫力がある。ジャンルは異なるが、落語は映画とかテレビより寄席やラジオの方が、、雰囲気が出る。

主観ついでに、筆者はミュージカルも映画化された方が好きだ。オペラ座の怪人やレ・ミゼラブルなども映画で見た。まず映画の方がアクセスしやすい。以前、生のミュージカル、演目はオペラ座の怪人の公演が地元横浜であると聞いてチケットを買おうとしたら、すでに完売だったことがある。映画ならそんなことはない。価格も映画の方が割安だ。生の舞台の方が、迫力があると言われるが、**映画の方がアクセスのしやすさは各段に上であり、映画で十分**だ。

内容とそれをどのような手段で伝えるか、言い換えれば中身と媒体、最近風にすればコンテンツとメディア、批評家の指摘通りここには相性があるのだろう。それも、**コンテンツとメディアの相性**と、**情報の受け手とメディアの相性**の 2 つがある。ラグビーの試合などを小説の形で伝えるとか、野球中継をそのままアニメにするとか、相性は良くないだろう。スポーツは生で見るか、それに近い臨場感を味わえる実写が良い。受け手とメディアの相性もある。家でゆっくり過ごすのが好きなら、スタジアムに行くより家でテレビ観戦の方を好むだろう。ミュージカルやその俳優が大好きという人は、何が何でもチケットを入手し見に行く。映画やテレビなど 2 次元化されるのは嫌う。

コンテンツとは言い換えれば情報だ。その情報をどのように届けるか、受け手それぞれにとって快適な方法、情報そのものにとって相性の良い方法、この**組み合わせを意識し、常に最適な解を模索しているか**、批評家の嫌味がなんだか刺さる。（武田）

関連部署でご回覧ください。

Ⅴ．市場動向レポート

I. 開業医とコンビニオーナー

1 月 29 日、神奈川県保険医協会が会見を開いた。会見の内容は、働き方に関するものであった。開業医の 4 人に 1 人は週 60 時間超労働、つまり月 80 時間以上の残業ということだ。しかも開業医の平均年齢は 60 歳との事。病院と異なり、開業医は数も多く客商売という側面もある。この傾向は都会で強まる。そして、その客である患者は都会になればなるほど勤め人が多く、彼らの都合に合わせると、**仕事帰りの夜や土日なども診療しなければならない**。歯科医は特にその傾向は強いだろう。

少し前にコンビニの 24 時間年中無休が問題になった。アルバイトの確保が難しくその分オーナーが働かざるを得ないため、オーナーの労働環境が劣悪になってしまう事が問題になったのだ。しかし、**労働法上コンビニオーナーは従業員ではない**。経営者であり、自分の裁量でどれだけ働くか、どれだけ休むか決められるという建前があり、保護の対象にはなっていなかったし、今でもなっていない。

同じことが開業医にも言える。勤務医は従業員であり、労働法上の保護の対象になる。これから過重労働をなくすように世の中は進んでいくだろう。しかし高齢化により患者は増えていくだろう。その受け皿は診療所であり、開業医だ。

コンビニエンスストアほど厳しくはないが、開業医もそのほとんどが保険医療というフランチャイズシステムの傘下にある。診療報酬という価格統制があり、チェーン本部の施策が報酬点数という形で降りてきて、利益を出すためには従わざるを得ない。在宅医療、かかりつけ医機能、多職種連携、**やることはどんどん増えている**。一方で医療機器などの高額化、都市部での地代の上昇、従業員の人件費向上などコストは上昇傾向にある。現状の損益を維持するためには今以上に働かなければならない。この傾向は地域医療連携、在宅医療推進が打ち出されたころから続いており 15 年以上はじわじわと続いてきたのではなかろうか。このような政策が進む背景には、コンビニと同じ論理、開業医は経営者であり労働時間は自分の裁量で決められるはずというものがある。ただ、診療報酬とはそもそも医療機関を思い通りに動かすための武器であり、その意味では程度の差こそあれ開業医も自由裁量は多くはない。さて、コンビニオーナーに関して今どうなっているかというと、労基署等、労働に関する当局は動いておらず公取委が興味を持っている。本部とオーナーの力関係を利用した不当な契約ではと疑っているからだ。一方で労働法上は問題ないという認識に変わりはないのだろう。開業医に関しては、お上が決める診療報酬が不当な契約とはならないだろう。コンビニにメスが入らないのだから労基も動かないだろう。利益だけでなく労働環境も厳しくなってしまうのだろう（武田）

関連部署でご回覧ください。

Ⅵ. 数字で見る医療提供体制（都道府県別医療機関数 19 年 12 月）

	施設数					病床数			
	病院	療養病床を有する病院（再掲）	一般診療所	療養病床を有する一般診療所（再掲）	歯科診療所	病院	療養病床（再掲）	一般診療所	療養病床（再掲）
全　国	8 285	3 652	102 649	761	68 404	1 527 321	306 410	89 957	7 685
01 北海道	552	240	3 382	38	2 876	93 094	20 822	5 637	441
02 青森	94	36	873	13	518	17 075	2 614	1 925	114
03 岩手	92	29	873	9	568	16 570	2 310	1 255	98
04 宮城	138	53	1 669	11	1 055	25 121	3 431	1 474	91
05 秋田	68	24	805	6	435	14 649	2 035	721	77
06 山形	67	22	917	6	481	14 234	2 068	615	65
07 福島	126	47	1 342	8	848	24 458	3 143	1 243	60
08 茨城	173	80	1 754	12	1 400	30 854	5 587	1 647	120
09 栃木	105	56	1 464	7	983	20 786	4 094	1 581	56
10 群馬	129	62	1 557	4	983	23 823	4 208	1 020	44
11 埼玉	342	122	4 381	3	3 558	62 862	11 403	2 582	34
12 千葉	289	121	3 817	9	3 265	59 176	10 527	2 177	115
13 東京	639	245	13 789	10	10 676	127 347	23 608	3 676	119
14 神奈川	336	120	6 816	9	4 942	74 006	13 184	2 308	139
15 新潟	126	44	1 669	1	1 149	27 668	4 623	537	19
16 富山	107	50	758	1	442	15 784	4 209	467	12
17 石川	93	41	871	2	485	17 304	3 753	848	16
18 福井	67	28	571	10	299	10 524	1 858	1 004	131
19 山梨	60	28	697	5	433	10 684	2 036	457	36
20 長野	127	56	1 576	12	1 013	23 351	3 572	849	113
21 岐阜	98	49	1 592	22	966	20 097	3 136	1 540	262
22 静岡	173	84	2 725	4	1 756	37 586	9 814	1 928	56
23 愛知	323	158	5 453	20	3 727	67 109	14 577	3 663	210
24 三重	93	49	1 521	15	822	19 621	3 927	1 141	194
25 滋賀	57	29	1 091	1	566	14 129	2 636	499	17
26 京都	164	55	2 455	2	1 303	34 219	5 408	703	25
27 大阪	511	216	8 528	5	5 511	105 235	21 130	2 181	44
28 兵庫	348	155	5 123	16	2 991	64 408	13 120	2 552	152
29 奈良	78	35	1 213	3	679	16 464	2 897	435	34
30 和歌山	83	38	1 022	11	528	13 230	2 493	880	122
31 鳥取	43	25	498	3	259	8 421	1 814	445	18
32 島根	49	28	709	3	267	10 241	1 956	458	22
33 岡山	161	75	1 650	28	986	27 651	4 345	2 046	321
34 広島	237	117	2 565	40	1 542	38 683	8 984	2 669	415
35 山口	145	77	1 242	9	653	25 900	8 674	1 440	101
36 徳島	107	60	727	16	432	13 942	4 001	1 546	122
37 香川	88	38	827	20	475	14 456	2 377	1 379	189
38 愛媛	135	71	1 223	21	660	21 027	4 574	2 351	257
39 高知	124	79	546	2	361	17 496	6 066	1 232	12
40 福岡	458	214	4 722	91	3 070	83 749	19 040	6 979	792
41 佐賀	101	55	693	34	414	14 505	3 983	2 184	285
42 長崎	149	66	1 364	44	722	25 988	6 105	3 355	414
43 熊本	210	100	1 471	49	845	33 710	8 340	4 628	497
44 大分	154	49	946	28	542	19 834	2 618	3 566	269
45 宮崎	137	64	894	22	504	18 769	3 682	2 393	218
46 鹿児島	239	123	1 368	69	801	32 771	7 824	4 827	654
47 沖縄	90	39	900	7	613	18 710	3 804	914	83

関連部署でご回覧ください。